



子どもたちの力を観光へ ～地域のことに關心をもってほしい・もっと地域を自慢してほしい～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

謹賀新年 今年こそ自由に観光が楽しめるようになることを願っています。今回は私達が取組んだ三宅島観光副読本についてレポートしたいと思います。

多様な主体や観光の新たな担い手づくりのために

2020年6月、「日本版持続可能な観光ガイドライン」が策定されました。その中では地域が一体となって持続可能な観光地域づくりを進めることが示されました。また、東京都の新しい観光プランでは、コロナ禍で低迷している観光事業の復活と持続的な観光の成長をめざすために「サステナブル・リカバリー」の理念を掲げ、多様な主体の連携や観光の担い手づくりに取組むことが検討されています。

大下ゼミでは、早くから子どもを対象とした観光まちづくり事業に代々の先輩方が取組んできました。地域を誇りに思い自慢したいと思う人が多い地域は魅力ある地域であり、そんな地域こそが訪れてみたいと思うものです。子どもの頃から地域に関心を持ち、地域の観光のことをもっと知りたいと願う子ども達を育てることが、将来、地域観光の担い手になるものと思っています。そんな考えを形にするため、三宅島観光副読本の発刊に取組みました。

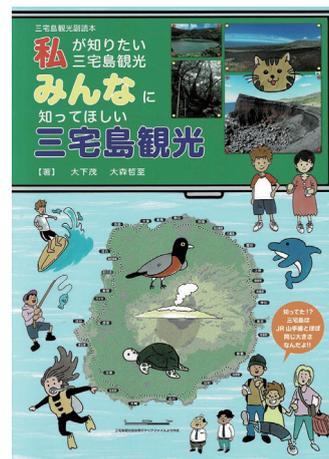
東京都内ではじめての取組み……三宅島観光副読本に関わって

2020年8月31日の夜、三宅島行の橋丸の船中に、私達はいました。「都内ではじめての取組み」小学生の気持ちが解る君たちの力を…という言葉に惹かれ副読本づくりに取組みました。今回の三宅島訪問は、村長やUターンした人々へのインタビューを兼ねた現地調査でした。

現地調査に先立ち、沖縄県や宮城県、天草地域等で先行して発刊されている観光副読本を参考に企画デザインを練りました。子ども達に興味をもってもらうためには、①文字は極力少なく大きな文字とする、②グラフや写真等による見せる本にする、③イラストでの会話調など興味をひくようにする、④遊びながら学べるようQ&A形式、クイズ形式などを組み込む、⑤インタビューをコラムとして編集するの5つのことを基本とする。ともに、遊びながら学べるツールとして「三宅島★しま巡りすごろく」を作成して付録としました。村長さん、教育長さんも企画に関心を寄せていただくことができ、2021年2月に無事に発刊することができました。



付録がついてる副読本はこれまでありません。付録は遊んで学べるしま巡りすごろくです!! 村長さんにも好評でした。



キャラクターをつくり、見て楽しめる副読本にしました。大下先生のキャラクターも登場します!!

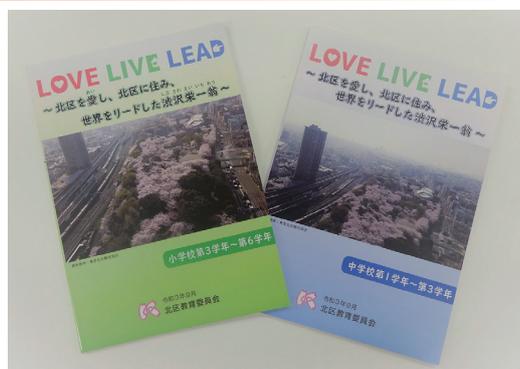


5人の方々にインタビュー、子ども達へのメッセージもいただきました。写真は村長室での櫻田村長さんとのインタビューの風景。

北区での渋沢栄一翁の副読本が話題に

大河ドラマ、新1万円札の肖像となる渋沢栄一翁。北区では協議会が設立され、公民連携で渋沢プロジェクトが推進されています。2020年度に地元の小中学生と渋沢人生すごろくで観光まちづくり事業に取組んだことは1年前にレポートしました(vol.122)。2021年9月、北区教育委員会では、渋沢栄一翁をテーマにした中学生用と小学生高学年用の副読本を発行し話題となっています。

地域が輩出した偉人をテーマにした副読本。これもまた地域に関心を持ち、地域自慢につながり、その先の観光まちづくりにもつながっていくものと思います。10年後、副読本を読んで地域に関心をもった子ども達が若者として地域を盛り上げてくれるようになる。目先のことだけでなく、将来を見据えた人づくりに取組むことーコロナ禍を体験した今だから大切なことではないでしょうか。(笹琴未・高橋采美)



地域の偉人・渋沢栄一翁をテーマにした副読本。地域に関心をもってもらうことにつながる取組みです(北区教育委員会)。

【参考資料】 観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン」
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf>
東京都「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン(素案)」
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/plan/tourism/kaigi/211105/>